

公立大学法人山口県立大学 附属
郷土文学資料センターだより



『やまぐちの文学者たち』[増補版]を
刊行して

山口県文化振興課 玉木 伸 尚
(現・山口県立高森高等学校 教諭)

「やまぐち文学回廊構想推進協議会」では、平成25年2月、山口ゆかりの文学者80人を紹介した『やまぐちの文学者たち』[増補版]を刊行し、県内すべての公立図書館及び中高等学校・大学に配付しました。この中では、平成18年刊行の『やまぐちの文学者たち』で紹介した文学者63人に、新たに選定した17人の文学者を追加して紹介しています。

「やまぐち文学回廊構想」は、県内の文学資源を「点」から「線」へ、「線」から「面」へ広げて展開し、新たな地域文化を創造しようとする構想ですが、新たに17人の文学者が追加されたことで、さらなる「線」のつながりと「面」の広がりが生まれました。

今回新たに選定した17人の文学者は、次のとおりです。(五十音順)

文学者	ジャンル	ゆかりの地
磯村 英樹	詩	下松市
井本 農一	国文学・俳句	周南市
岩川 隆	ノンフィクション・小説	岩国市・周南市・防府市
上田 保	評論・翻訳	防府市
上野さち子	俳句・国文学	山口市
太田 静一	評論	山口市
北森 鴻	小説	下関市・宇部市・山口市
新村 出	言語学・短歌	山口市
田島 準子	小説・児童文学	山口市
近木圭之介	俳句	下関市
奈良本辰也	歴史学・小説	周防大島町
宮本 顕治	評論	光市
宮本 常一	民俗学・随筆	周防大島町
元島 英三	児童文学	岩国市
湯郷 将和	小説	萩市
横山 白虹	俳句	長門市・下関市
若月 紫蘭	翻訳・評論	防府市

今回の文学者選定の特徴は、①前回、平成9年度の文学者63人の選定で取り上げていない、児童文学や翻訳などのジャンルからも幅広く選定したこと、②学術研究の分野で活躍した著名な研究者で、優れた文学作品を残している方も選定したことです。

確かに17人の中には、宮本常一や奈良本辰也をはじめとして、研究者として顕著な活躍をした方が入っていますが、質の高い文学作品を残していることはあまり知られていません。研究対象を外から分析的に見つめる冷徹な視線を主としながらも、想像力を駆使して人間の内面を掘り下げる視線を併せもち、バランスをとっていたのかもしれない。

『やまぐちの文学者たち』[増補版]には、文学者80人の肖像写真、文学者についての解説、年譜が掲載されていますが、この本をきっかけとして、これまで知られていなかった文学者の功績や山口との深いつながりが県民に幅広く浸透し、80人の文学者が山口県の誇りとして共有されることを願っています。

また新たに、山口ゆかりの文学者に関する資料や情報が、散逸を免れ、確かな記録として残されました。連綿と続く山口県の文学史に、「やまぐちの文学者たち」80人の足跡を刻むことができたことは、文化を次代へ継承するための価値ある一歩であると確信しています。

解説文の執筆と年譜の作成を担当してくださった皆様、貴重な写真や情報を提供してくださった御遺族や関係の皆様をはじめ、[増補版]刊行に向けて支援してくださったすべての皆様に、この紙面をお借りして、厚くお礼申し上げます。ありがとうございました。

「やまぐち文学回廊構想推進協議会」では、今後も山口ゆかりの文学者に関する情報発信を続けてまいります。どうか御期待ください。



▲ 『やまぐちの文学者たち』[増補版]

山口鷺流狂言の現況

稲田 秀雄 (郷土文学資料センター 所長)

今年(平成25年)1月27日に、本学講堂にて「鷺流狂言in山口県立大学」が開催され、約300名の入場があった。本学での鷺流狂言公演もこれで5回目となる。山口に伝わる鷺流狂言は、本学、特に当センターとの関係も深いですが、最近、全国的に注目を集めていることをご存知だろうか。

山口鷺流狂言は、山口県指定の無形文化財第1号である。狂言の3つの流儀のうち、大蔵流



と和泉流は今も存続している（プロの役者がいる）が、鷺流だけは明治維新の影響により衰退し、ついに廃絶に至った。ところが、この鷺流の芸系が佐渡と山口に奇跡的に残っていたのである。しかも両者はそれぞれ派を異にしていて、山口の鷺流は日本でただ1箇所、鷺伝右衛門派の台本や演出を伝えている。山口鷺流狂言がいかにも貴重な芸能であるかは、これで明白であろう。

山口鷺流狂言保存会が結成されたのは、昭和29年（1954）であるから、来年は結成60周年となる（記念公演が予定されている）。この記念すべき年を目前にして、先頃慶事があった。昨年9月、保存会はサントリー文化財団から「サントリー地域文化賞」を受賞したのである。この賞は、「全国各地で展開されている芸術、文学、伝統の保存・継承、衣食住での文化創出、環境美化、国際交流などの活動を通じて、地域の文化向上と活性化に貢献した個人、団体」（サントリー文化財団HPによる）に贈られる全国規模のもので、山口市では初めての受賞であった。プロではない人たちが、地域独自の文化の継承に対する義務感と使命感によって、この芸能を長年支えてきたのであり、それが顕彰された意義は何よりも大きい。年1回の定期公演はもとより、小中学校でのワークショップなどを通じて、古典芸能に親しむ機会を提供してきた功績も忘れてはならず、ほぼ恒例化した大学での公演も、実はそのような機会の1つなのである。

昨年12月8日には、東京文化財研究所無形文化遺産部主催による公開学術講座「山口鷺流狂言の伝承を考える」が東京国立博物館平成館講堂で開催され、講演と狂言の実演（「宮城野」「不毒」）が行われた。東京での公演は、平成12年（2000）の国立能楽堂の企画以来である。このように、近年は山口鷺流を学術的にとらえる動きも活発であり、それはひとえに、伝承の確かさと、小林栄治氏をはじめとする演者の芸位の高さに由来しているといえよう。

当センターが鷺流狂言関係資料を所蔵しているのも、かつて本学の前身・山口女子短期大学に在籍していた石川弥一氏が、鷺流狂言研究の先駆者であったことによる。当センターと山口鷺流との縁の深さに思いをいたしつつ、そうした縁について、また山口鷺流狂言そのものについて、1人でも多くの方々に知っていただきたいと願う昨今である。（写真はいずれも上記、鷺流狂言in山口県立大学2013より）



平成25年度の山口県立大学サテライトカレッジ「やまぐちの文学再発見」は、以下のプログラムで開催予定です。

会場：山陽小野田市立厚狭図書館 時間：13：30～15：00 受講料：1,500円

回数	日時	テーマおよび講座内容	講師
1	9. 7 (土)	中原中也と短歌	山口県立大学名誉教授 福田百合子
2	9.14 (土)	与謝野鉄幹と林滝野	当センター研究員 加藤 禎行
3	9.28 (土)	大内氏と奇談 ～江戸時代の怪異小説集『伽婢子』・『狗張子』より	当センター研究員 木越 俊介
4	10. 5 (土)	『平家物語』に建礼門院の悲劇を読む	当センター所長 稲田 秀雄

寄贈図書 (2012年11月～2013年4月)

多田みちよ『続 嘉村礒多ノート』・兼崎地橙孫兼彰会『俳人兼崎地橙孫自伝抄』・浜崎勢津子『私の四国遍路』・久木綾子『ラジオ深夜便』NO.107,123・久木綾子『見残しの塔 周防国五重塔縁起』・久木綾子『禊の塔 羽黒山五重塔下意仄聞』・石川芳己『小さな詩人たち 子ども歳時記』・熊井清雄『東洋の化粧王と呼ばれた 中山太一兄弟伝』・山口文学回廊構想推進協議会『山口の文学者たち』・山口文学回廊構想推進協議会『山口の文学者たち ダイジェスト版』・金井道子『句集 彷徨う』・山本寛嗣『歌集 野火の炎』

寄贈雑誌 (2012年11月～2013年4月)

『其桃』第815～820号(其桃発行所)・『颯』第91,92号(颯事務局)・『12現代山口詩選』(山口県詩人懇話会)・『文芸山口』第306,307号・『合同年刊句集 すばる』VOL.47(すばる俳句会)・『地橙孫新聞』第9号(兼崎地橙孫顕彰会)・『山彦』VOL.113,114(山彦俳句会)・『ふるさと紀行』通巻132,133号(ふるさと紀行編集部)・『しゅりんぷ』第8,10,11,12号(しゅりんぷ詩舎)・『あらつち』通巻684,685,686号(あらつち社事務局)・『火山群』51号(岩国文学協会)・『山口国語教育研究』第22号(山口国語教育学会)・『和海藻』第28号(豊北町郷土文化研究会)

編集後記

▼センター日より21号をお届けします。▼巻頭には、前号にひきつづき、本年3月まで山口県文化振興課で主任をつとめられた玉木伸尚氏(現・山口県立高森高等学校教諭)に、待望久しい『やまぐちの文学者たち』[増補版]の発刊について御寄稿していただきました。▼旧版も県内の文化における様々な場面で活用されてきましたが、このたびの増補版はさらに17名が加わり、またジャンルも多岐にわたり、いっそうやまぐちの文学者の足跡を網羅する内容となっております。装丁も品の良い白を基調とし、各項目の年譜も充実しております。ぜひとも手にとっていただければと思います。▼稲田当センター所長には、ここ最近の鷺流狂言の動向についてレポートしていただきました。文中にもありますとおり、昨年9月、同保存会が「サントリー地域文化賞」を受賞し、県内のみならず、全国的にも注目を集めております。これも日頃のたゆまぬ努力の結果であり、ますますのご発展をお祈りします。▼「鷺流狂言 in 山口県立大学」は、今後も毎年開催いたしますので、またホームページその他でチェックしていただけましたら幸いです。▼次号は11月発刊予定です。(K)



■編集発行：公立大学法人山口県立大学附属郷土文学資料センター (〒753-8502 山口市桜島3-2-1)
TEL. (083) 928-0211 FAX. (083) 928-2251
■発行日：2013(平成25)年5月31日